

愛隣館研修センターニュース 第80号

〒 612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail : airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替 01020-5-39321

編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

向島を「多文化共生社会」に！ ～中国残留邦人帰国者から学ぶ～

ここ向島ニュータウンには「中国残留邦人帰国者」の方やその親族の方々が約 1000 人ほど生活されています。今号では、「帰国者」のお一人である向島市営住宅 5 街区にお住いの金井睦世さんから、これまでの辛酸を共にしてきた生活について語っていただきました。

*「中国残留邦人」とは、日本がつくった傀儡国家「満州国」に、国策である「満蒙開拓団」として多くの日本人が「渡満」し、敗戦後の混乱の中で、中国に置き去りにされ、中国人家庭で保護され、帰るに帰れなかった人々のことです。

【優しい養父母と中国での生活】

1941 年満州国吉林省で、新潟県開拓団の一員であった金井國蔵の次女として生まれました。終戦を迎えた 1945 年、母、姉、生まれたばかりの弟は病気で亡くなり、隣の家に住んでいた子どものいなかった中国人夫婦が私を実子として育ててくれました。

当時の中国は貧しく、学校へ行ける子どもは少なかったのですが、養父母は学校で教育を受けられるようにしてくれました。また、私が日本人であることが分かり、いじめを受けると、家を引っ越してまで守ってくれました。高等学校の成績は良く、医師になりたいと志望していました。しかし、日本人であるため大学に通うことが許されませんでした。ですので、高等学校を卒業後は中学校の教師として働きました。学校時代は中日戦争の映画を観る授業のときに、「日本兵に家族が殺された」「家を焼かれた」などの話を聞くと、自分が犯罪者であるように感じずにはおれず、とても辛い思いをしました。

【棄民政策・戸籍抹消・外国人登録

…日本政府の帰国者への対応】

私が生まれた時、父は「金井睦世」の名前を戸籍に載せてくれました。しかし、「未帰還者に関する特別措置法に基づき」1963 年に死亡宣告され、私は生きているのに戸籍を消されました。父が日本政府に熱望しても私を探しに中国に行くことを許されなかったのはこのためです。その後、1988 年叔父が裁判を起こし失踪宣告を取り消してくれましたが、「帰国するには日本国内の肉親の同意と身元保証人が必要」と、日本人であることが認められた後でも、外国人登録証が必要になるなど日本人としてではなく、外国人として扱われることに憤りを感じました。

【今の生活で困っていること】

1991 年永住帰国したとき、私は 50 歳になっていました。帰国後の 4 ヶ月間は大阪の帰国者自立センターに通いましたが、日本語を習うというよりも様々な手続きに追われる毎日、半月分の勉強しかできませんでした。

日本人でありながら思うように日本語を話すことができず、周囲の人とのコミュニケーションに今でも困っています。もう少し早く、若いときに帰国できていれば、日本語を学び、話せるようになって仕事につくこともできたかもしれません。

現在は、2008 年に施行された「中国残留邦人支援法」により、老齢年金と生活支援金でなんとか生活していますが、帰国当初は、生活保護費のみの受給であったために、毎日の生活をするだけで精一杯でした。育ててもらった養父母に仕送りがあったとしても、なかなか思ったようにお金を貯めることが出来ませんでした。また、養父母のお墓参りに行くことも自由にできず、辛かったです。

私は、日本政府に対して「もう二度と棄民政策をとらないこと」「二度と無力な者に、冷淡であったり、なおざりにしたりしないこと」を強く求めます。

子どもや孫たちが、この社会の中で、差別を受けることなく、人間としてあたりまえの生活ができるように願っております。

インタビューを終えて…

「中国残留邦人帰国者」の方が抱えておられる課題は、私たちの地域の課題でもあると考えさせられました。この向島の地域がお互いの違いを認め合って生きていける、「多文化共生社会」となれるように共に力を合わせていきたいと感じました。(記：平田・福野)

シリーズ「向島ニュータウン30周年」を語る②

1977年入居開始より向島ニュータウン各街区は30周年を迎えました。そこで、3回シリーズでこの地域のために活動されている方々から、活動の内容やニュータウンへの思いなどを語っていただくことにいたしました。今回第2弾にご登場してくださったのは、向島ニュータウン憲法9条を守る会代表世話人 藤木長晟 さんです。

みんななかよく けんかしないで平和な世界を！

向島ニュータウンに皆の平和の声をひびかせよう～と大きなうねりとなって今年6月に憲法9条を守る会向島ニュータウンの会が発足しました。10月17日愛隣館で「9条のつどい」が大成功で開催されました。

憲法9条（戦争はいかん）、25条（いのちは大切）を守ろうと全国各地で草の根運動をくりひろげています。政府や大企業による差別貧困の政治に反対しましょう。そして沖縄の人々と一緒に日本の平和と米軍基地撤去を!!頑張りましょう！

向島ニュータウン憲法9条を守る会代表世話人
向島公団住宅自治会会長 藤木長晟

SIEA(アジア国際夏期学校) 濟州島セミナー参加記

去る9月25日～28日韓国の濟州島にて「4・3事件」を学ぶため、セミナーを行いました。

■ 濟州島を訪れて ■

小久保 さやか

濟州島セミナーの話は聞いていたが、まさか自分がこのセミナーに参加することになるとは思っていなかった。濟州島セミナーの1ヶ月ほど前、突然わたしにこの話がやってきたのだ。濟州島で起きた出来事の複雑さや自分自身がどこまで受け止めることができるのかなど考えると、わたしには到底無理なような気がした。しかし、毎日少しずつ濟州島の本を読み、考えていく中で、これはわたしに与えられた一つの課題なのではないかと思うようになり、参加を決めた。そしてたくさんの不安を抱えわたしは濟州島に向かった。

初日から「失われた村」を巡り、そこから逃れてきた人々が身を潜めていた洞窟に入って…となかなかハードなスケジュールがわたしたちを待っていた。初日から衝撃的な内容が多く、わたしの心は緊張と不安でめっちゃちゃだったが、案内してくださった金昌厚(キムチャンフ)先生のほっとするような人柄とメンバーの温かいフォローのおかげで沖縄戦跡が残るガマでリタイヤを経験したわたしも「トレッキングだと思えば大丈夫！」と自分に言い聞かせてなんとか洞窟の中に入ることができたのだ。洞窟の中はヘルメットと懐中電灯、それから軍手が必需品というなんとも過酷な場所だった。何度も頭をぶつけながら地面を這うようにして入っていった。そこを村の人々は真冬に着の身着のまま逃げてきたのだという。もちろん軍手なんて持っていな

かったら。そう広くない真っ暗な洞窟の中で何百人もの人が息を殺して2ヶ月ほど暮らしていただなんて想像するだけでも信じられない。そんな状態でよほどの信念が無ければ光の射す希望や未来を描くことなどできなかったはずだ。それでもそんなに長い間そこに留まり、生き延びられたのは人々の支え合いがあってこそだと思う。しかし一方で、私たちが訪れた洞窟へ逃げ込んできた人の多くはたまたま生き延びることができたが、中には見つかって虐殺された人も少なくはなかった。

かつて虐殺が行われた場所や旧日本軍基地跡にも足を運んだ。今は観光地として知られる正房瀑布という滝も多く命が奪われたところである。わたしたちが訪れたときもたくさんの観光客が楽しそうに写真を撮っていたが、そんな話を聞くと観光客と同じような気分になって写真を撮ることはできなかった。なんとも言えない深い悲しみがそこには今も広がっている気がした。日本軍基地があったというアルトゥル飛行場には今も戦闘機の格納庫が広い畑の中にいくつも残っている。戦跡が現在もそこに生きる人々の生活の中でひっそりと静かに時を刻んでいた。日本軍がここにいたということを感じ、不思議な光景だった。4・3記念公園には「4・3事件」で犠牲になった3万人の名前が刻まれた位牌が納められている。しかし今、「4・3事件」の調査が進む中で武装隊の一員として犠牲になったと明らかになった人の名前がそこから外されていていっているという。「4・3事件」経験者を始め遺族の悲しみは数十年が過ぎた

今も終わることなく続いている生きた問題だということを改めて感じた場所だった。

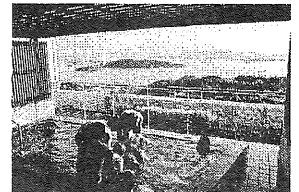
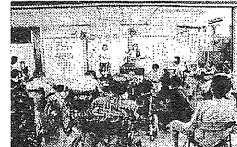
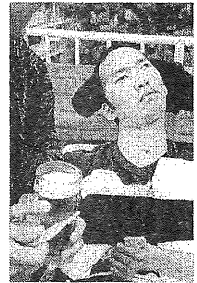
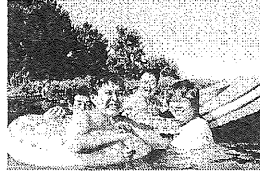
毎日内容の濃い時間を過ごし、この他にも本当にたくさんのお話を学ばせていただいた。一つの国(民族)が分断されるという出来事には複雑で繊細な問題が多く含まれているのだ。あまりに複雑で深い問題だったので、セミナーが終わって時間が少し経った今もうまく説明することができない部分が多々ある。そんな中で今思うのは、セミナーの間、連日夜に行われていた振り返りの時間がわたしにとってとても大切だったということだ。年齢も職業も生活している場所も違う参加者が思い思いに自分の感じたことを話していく。同じものを見ているのに参加している一人ひとりの胸に残っていることは少しずつ違うのだ。自分の出会いきれなかったさまざまな想いを共有していくことでセミナーの内容が何倍にも深まっていくことを感じた。

そしてまた、濟州島で起きた様々な出来事を知っていく中で、わたしの中は混乱し混沌とした思いが広がっていたが、おいしい食事を一緒に囲む姿を通して「一緒に食卓を囲む」ということがいかに幸せで嬉しいことなのかをしみじみと感じる日々だった。同じ食卓を囲むとき、そこにはお互いを受け入れてできる安らぎがあると思う。あの凍りついた日々の中では、きっと落ちていて食事をとることすらままならなかっただろう。今も温かい食事を一緒にとることができない地域が世界にはたくさんある。南北が分断してしまった朝鮮・韓国もその一つだと思う。そうしたところに生きる人々もいつか同じ食卓を囲み、温かい時間を分かち合える日がくることを心から願う。

最後に充実した4日間を共に分かち合えた皆さんに心から感謝したい。ありがとうございました。

■ 2010年7-11月の行事報告 ■

- 7/24 SIEA オリエンテーション 7/25 SIEA 開校式(第32回)2名参加(1名は台湾へ) BBQ 屋外で飲む ↓生ビール最高!
- 7/29 『遊隣』クッキング企画 8/5 『遊隣』海企画
- 8/7-8 向島伝道所キャンプ
- 8/12-13 『遊隣』キャンプ in 同志社リトリートセンター
- 8/17-18 『遊隣』キャンプ in びわ湖こどもの国 びわ湖最高!→
- 8/25-27 SIEA 宮崎県土呂久セミナー
- 9/3 自閉症学習会
- 9/8 「寿[kotobuki]」訪問 素敵なお話をありがとうございました。大盛り上がり♪→
- 9/13.14.15.17 BBQ in 愛隣館 テーマは沖縄&ブラジル
- 9/25-28 SIEA 濟州島セミナー
- 9/29 イエス団京都ブロック職員研修会 講師：東谷誠氏
日本基督教団部落解放センターの東谷さんから、ご自身の被差別の体験を生々しく語っていただいた。差別のない社会を共に作りあげよう!
- 10/7-8 デイサービス一泊旅行(岡山・倉敷&児島) 露天風呂からの眺望にうっとり→
- 10/16-17 医療的ケア研修 in 仙台
- 10/20 医療的ケア学習会(「姿勢とポジショニング」について)
- 10/29-30 デイケア・シサム一泊旅行(岡山・倉敷&児島)
- 11/5 自閉症学習会
- 11/14 向島秋の祭典 地域のお祭りに参加しました!
- 11/22 向島にっこりフェスティバル! 子どもたちとの交流、参加者同志の交流、もちろんテーマは「交流」
- 11/30 医療的ケア学習会(「体のゆるめ」について)



詩人 柏木正行さん(1945-2006)の

魂に触れる ⑬

三里塚

三里塚の空

それは わたしが これまでにみたどの空よりも
ふかく おおく すんでいた

三里塚の大地

それは わたしが みた土地のなかで
もっとも ゆたかに 黒ずんでいた

その大地に

秋の ひかりが すいこまれていた

三里塚は 戦場だった

そらには ヘリコプターが まいとび

みちの 要所要所を 機動隊員が かため

団結小屋が たち

その のきばにはためく 赤旗がまぶしかった
ラウドスピーカーがことばの弾丸をはじきだし

とおくの そらに

ふるタイヤを燃やすけむりがひろがるのだった
なにもかも わらいだしたくなかった

秋の おひさまも わらっているようだった

青や白のヘルメットをかぶったおとこたちが
さわいでいるのを
おもしろがっているようだった

むくの木の詩 より 柏木正行著(有)批評社

お悔やみ

岩井カズ枝さんが2010年11月18日、天国へ旅立たれました。
 デイサービス開所直後から利用していただき、15年を超える歳月が流れていました。
 陶芸に取り組む姿がとても印象的でしたが、忘年会でスタッフの用意したつけ鼻とめがねを
 かけて微笑んで下さるユーモアたっぷりの姿も忘れられません。また、お出かけの際には若かりし
 日のこと、戦争当時のお話や生活の知恵など、とても貴重な話をお聞かせくださりありがとうご
 ざいました。もっともっと学ばせていただきたい!と想っている中の訃報、残念でなりません。
 いつまでもお元気でいてくださると思い込んでいた甘さが身にしみず。
 本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。(辻)

『富士皓之君へ』

2010年11月28日(日)君の訃報が届きました。研修の講義中だったので、講師に当てられないよう俯いてい
 たら、涙がポロポロと二粒落ちました。慌てて上向いて大きなあくびのフリで、涙を拭いていたら「お腹が膨
 れて眠いとは思いますが」と何気にチクリとやられたよ。

現実感の無い日常というヤツはあるもので、棺に横たわった君は眠ってはいなかった。障がいで失った言葉の
 代わりに、曲げ伸ばしで君の意志を伝えてくれた人差し指も、もう動かなかった。横たわる君の前で、鳴らした
 手回しオルゴールは聴いてくれた?紙製でいい音だったでしょ?人差し指を思い切り立ててくれているのが、
 目に浮かびます。二年前の石川旅行で一緒に聴いた、88万円のオルゴールには遥かなわれないけれど。あれは
 よかったねえ。君は震えていたもんねえ。でもあの時、君が買った「G線上のアリア」のオルゴールは羨ましか
 ったなあ。あの曲のオルゴールは珍しいらしく、店にはあれ一点のみ。君のお父さんに聞いたんだけど、君が
 母さんのお腹にいた頃、胎教でいつもあの曲を流していたそうですね。知ってた?音楽好きの君が教えて
 くれた数々の名曲。これからも君の事、思いながら大切に聴きます。

あっそれと最後に、聞かされた事が、“くそつたれの素晴らしき世界”はどうでしたか?まあまあって言う
 かな。いや、君は最高!って言うと思うんだけど。いつかまた教えてください。

長い手紙になってしまったけれど、本当にありがとう!どうかゆっくり休んでくださいね。お疲れ様でした。
 永江孝志

ヘルパー募集

- 内容 ■ 障がい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」移動支援・居宅支援
- 資格 ■ ヘルパー・ガイドヘルパー・介護福祉士・看護師など
- 時間 ■ 8:30-17:30の間 週1日からOK! 土・日に来られる方大歓迎!
- 時給 ■ 1100円 待遇 ■ 交通費実費支給、自転車・バイク通勤可
- 連絡先 ■ Tel. 075-612-6165 Fax. 075-612-6169 (担当:森拓平)

2010年 クリスマス献金のお願い —これからの“地域”を見据えて—

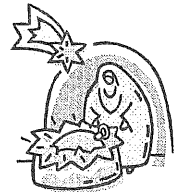
当センターが、この向島の地に誕生してから、早くも30年が経過いたしました。今日まで、皆様方のご理解と
 ご支援によって支えられ、活動を続けることが出来たこと、心より感謝します。

新政権が誕生し、新しい時代へと移り変わっていく期待が膨らんでいましたが、その期待も一気に萎んでしま
 っている今日この頃です。昨年、長妻厚生労働大臣は、就任後、稀代の悪法である「障害者自立支援法」の廃止
 をいち早く公表いたしました。がしかし、「廃止」されるどころか、今秋「改正障害者自立支援法」なるつなぎ
 法案が誕生しました。これは、完全に裏切り行為です。現在、「障がい者総合福祉法」制定のために、会議が続
 けられているようですが、障がいのある人が、あたりまえに地域で安心して暮らしていくことができるような制
 度となるように、声を挙げていきたいものです。

しかし、どのような法律や制度ができたとしても、隙間はできてしまいます。私たちは、その隙間を埋めてい
 く働きを、これからも続けていきたいと願っております。その働きのために、皆さまからのご支援、ご協力をお
 願いいたします。 これまでも皆様方には多額の献金をして頂いているにもかかわらず、新たなお願いをさせて
 頂くのは、誠に恐縮ですが、今年度も「愛隣館研修センター・クリスマス献金」にご協力頂きますよう、改めて
 お願いを申し上げる次第でございます。

《クリスマス献金・要項》

- 目的: 障がい児・者とその家族とが地域で安心して暮らして
 いくことができる為に、愛隣館研修センターの今後の活動を支援する
- 目標金額: 3,000,000円 ※ 口数、金額ともに任意です。
- 送金方法: 郵便振替 01020-5-39321
- 口座名: 社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター



るが▽もの帰とつそつれ手の人送のみ中蒙大地ク当にま国は▽してご完ユ修▼★ た日ま日十セ▽ ★
 の蔓植続昔国かたのゆて先侵わり政ま国開宣をタた行し—は日本感想おご意見号二
 だ延民いしさ生の犠知いに略は込策しに拓伝与りけたを—は年政府待て休三十は研
 つ地でみれきだ牲らるさ戦`まとた送団しエル2ば▽つ—の0一満く満府すて休三十は研
 (ひて主いはた残▽とずとせ争日れし▽り—るの0一満く満府すて休三十は研
)い義る今方り何な `はらの本たて国込を満と土へ人州り州は